

第 15 回東川賞審査講評

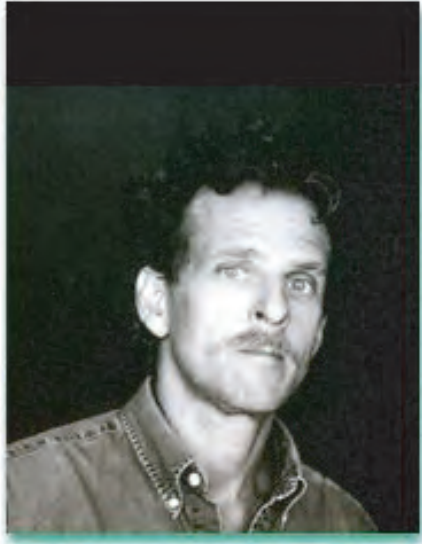
海外作家賞	クラウディオ・エディンガー氏 (Claudio EDINGER)
国内作家賞	石内 都氏 (いしうち・みやこ)
新人作家賞	やなぎ みわ氏 (やなぎ・みわ)
特別作家賞	高田 邦彦氏 (たかだ・くにひこ)

1985（昭和 60）年に始まり本年が 15 回目に当たる東川賞の選考は、例年通り早春の 東京で、全国の写真関係各位にお寄せいただいたノミネートに基づく候補作品資料を 取り揃えて審査委員一同が会し滞りなく行うことができた。その結果は別に掲げた通りであり、ここでは選考時に交わされた審査委員の意見を集約する形で、その経緯について報告したい。 まず海外作家賞は、標記の通り、南米はブラジルの写真家、サンパウロのクラウディオ・エディンガーに決定した。この選考に先立って、今年度の海外作家賞の選考地 域を南アメリカ大陸に絞ることとし、審査会から平木収が、去る 2 月下旬、直接ブラジルのサンパウロへ赴き、現地で近隣諸国の情報共々、南米現代写真界の動静と動向の調査を行った。その成果として持ち帰った約 30 件の資料を精査し、本年度の海外作家賞を決定した次第である。エディンガーは、ブラジル国内はもとより、広く北米やヨーロッパにも知られているブラジル写真界の気鋭だが、審査の対象となった作品は、かの有名なブラジルのカーニバルに取材したモノクロームの写真集で、その土着的な伝統行事の裏と表を、軽妙かつシリアスに、また情熱的ながら、どこか冷静に捉えた作品である。我々が断片的に知るカーニバルとは異質の、ブラジル人にとっての真のカーニバルが表現された作品として、審査委員の好評を博した。他の候補としては、アマゾンに潜むアフリカを源流とする文化の延長線上で表現活動を展開しているマリオ・クラボ・ネットや、情熱的なブラジル気質をドラマチックに表現するミゲル・ブロンコらが関心を集めた。そうした中で、エディンガーの明快さは、受賞の切り札となった。 次に国内作家賞は、石内都に決定した。石内は 1977 年に東京銀座のニコンサロンでの個展「絶唱・横須賀ストーリー」でデビューし、1979 年には「APARTMENT」で第 4 回の木村伊兵衛賞を得て以来、着実に自身のペースを保ちつつ、一貫して自己の生の歴史と記憶をテーマに、写真表現活動を続けている。近年の彼女の関心は、身体に刻まれた個々人の歴史にあり、近作の写真展作品「SCARS」では、人体に残る外傷の跡に着目し、哲学的ともいえる思索の契機を提供してくれる。この内省的ながら積極的な作家姿勢が評価され、他の候補と大きな隔たりの下、授賞が決定された。その過程で、石内作品の特質が討議されたが、決め手は、コンセプトの純粋さという点であったといえよう。 新人作家賞については、意見の交錯もあったが、写真畑というより、現代美術のフィールドで、写真を使ったユニークなインスタレーション活動を繰り広げているやなぎみわに決定した。彼女は、自らをモチーフに、現実と想念の境界上に、また別の仮想次元を開くことにより、より現実の内実に迫ろうとする高度に創造性の際立つインスタレーション作品を発表しており、内外の関心と注目を集めている新進アーティストである。写真家ではなく造形芸術の延長上にあるアーティストの彼女に授賞することには、論議も生じたが、写真というメディアの可能性を最大限に発揮しているアーティストを対象者とするには、積極的に先取的な意義こそあれ問題なしとの意見が統一見解となり、やなぎみわを決定した。

北海道ゆかりの写真家に贈与される特別賞は、網走に生まれ、米国や北欧での写真生活の後、再び故郷の網走に帰り、地元でファインアートとしての写真に正面から取り組み続けている高田邦彦に決定した。高田は、サンフランシスコの大学で、きわめて精緻なモノクロームの写真術の基本を身につけた後に、北欧フィンランドのヘルシンキ大学へ留学、かの地でも写真を学びつつ、作家としての一步を踏み出した。彼の冷気や雪に対する感覚の繊細さと豊かさは、北欧の気候風土も巧みに表現したが、帰国後に故国の厳冬をモチーフとした作品は、さらに磨きがかかり、我が国では比類なきユニークな寒冷な風土の写真家として、確かな活動を続けている。道内在住のストリート・フォト写真家で高品位の作画、印画を貫く存在としては貴重な人物であり、今後さらに網走発世界への展開も期待される。まさに特別賞の作家としてうってつけの写真家といえよう。こうして、本年も4人の栄えある写真家を選考できたことを我々の悦びとし、その4人を我々審査会は誇りをもって推挙する次第である。

東川賞審査会幹事委員 平木 収

第 15 回東川賞 《海外作家賞》 "The Overseas Photographer Award"



クラウディオ エディンガー (Claudio EDINGER)

ラジル連邦共和国サンパウロ市在住

1952 年 生まれ

第 15 回東川賞 《国内作家賞》 "The Domestic Photographer Award"



石内 都

東京都目黒区在住

1947 年 3 月 27 日 群馬県生まれ

1953 ～ 1966 年 横須賀育ち

1970 年 多摩美術大学デザイン科織りコース中退

1979 年 第 4 回木村伊兵衛賞受賞

第15回東川賞《新人作家賞》 "The New Photographer Award"



やなぎ みわ 京都市在住

1967年 神戸に生まれる。

1991年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。

第15回東川賞《特別作家賞》 "The Special Award"



高田 邦彦 網走市在住

1953年8月22日 北海道網走市に生まれる。

1973年 渡米。

1978年 サンフランシスコ州立大学芸術学部写真学科卒業。

1980～81年 東京にて建築写真家・村井修氏のアシスタントとなる。

1984～85年 フィンランドに滞在。

1990年 ヘルシンキ産業芸術大学大学院視覚伝達学部写真学科入学。

1992年 同大学卒業。同年帰郷し、網走市にて写真家として活動。北方都市、風景などに興味を持ちながら現在に至り、「北」を意識した写真を発表している。